

## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	白石市家庭教育支援チーム (呼称:しろいし家庭教育支援チーム「ペアレントらん」)
活動開始年度	平成26年度
活動拠点	白石市中央公民館
活動範囲	白石市内全域
活動財源	<input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名 ) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ( )
組織体制	<u>8</u> 人 子育てサポーター5人、元教員 1人、民生委員 1人、元保育士1人
具体的な活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 講座型 <input type="checkbox"/> 拠点型 <input type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合型 <input type="checkbox"/> その他( ) ・宮城県版「親の学びのプログラム」を活用し、就学時検診や一日入学説明会で保護者向けに出前講座を実施しグループワークをとoshi、日頃の子育てを見つめ直す気づきに繋げる機会を提供することができた。 ・宮城県版「親の学びのプログラム」を活用し、未来の親になる中学生を対象に出前講座を実施しグループワークや妊婦疑似体験をとoshi、親になることへの理解を深める機会を提供することができた。 ・広報紙を活用した活動実績の周知
活動の成果	・アンケート結果をとoshi、保護者からは「日頃の子育てを見つめ直す機会に繋がった」や「子育ての悩みをみんなと共有でき、自分だけの悩みではないことを知った」などの感想が寄せられた。また、参加中学生からは「親への感謝の心」や「妊婦さんを思いやる心」が育まれた感想が寄せられた。
活動において苦労した点や課題	・学校側との連携が必要なことから、「家庭教育支援事業」についてその目的などを校長会等で説明し理解を得られるよう努めた。 ・学校側も行政側も、人事異動等で担当者が変わっても、支援チームが活動できるような基盤づくりが大切と感じている。 ・支援チーム員の会員が減少していることから、新規会員の確保が課題と感じている。

<b>今後の活動目標</b>	・宮城県版「親の学びのプログラム」を活用した出前講座は、市内全小中学校の実施には至っていないので、全小中学校での実施を目標とし家庭教育支援の推進を図っていき たい。
<b>問合せ先</b>	(部署・氏名等)白石市教育委員会 生涯学習課 (TEL)0224-22-1343 (E-mail) <a href="mailto:con-edu@city.shiroishi.miyagi.jp">con-edu@city.shiroishi.miyagi.jp</a>